

3月15日（月）

命を守ることに大切なのは「主体性」



今年度最後の「命を守る訓練」を5限目を実施しました。地震から火災が発生したという想定で、全校生徒が旧瑞陵中跡地に避難しました。

避難の指示が出ると、全校生徒がてきぱきと動き、窓閉め、カーテン

束ね、整列を完了させ、無言で移動を始めました。避難途中にも不用意な笑いやおしゃべりは全くなく、全校生徒は真剣に取り組みました。

整列が完了してからは、東日本大震災の被災地に出向いたことのあるS教諭からの話を聞き、自然災害の恐怖について改めて学びました。

最後は、校長が「津波てんでんこ」という言葉の意味と避難するときに必要なことを生徒たちに語りました。

「『津波てんでんこ』というのは、津波から命を守るための大切な避難方法です。言葉から学べることは、最終的に、『自分の命は自分で守る』ということです。今回の訓練で、どこに、どのように避難すればよいかは分かったはず。仲間と一緒になくても、今回学んだことを基本にして、自分の命は自分で守るようにしよう。命を守ることに『主体性』が大切です。」

命を守ることに、「主体性」が大きくかかわります。自分で判断し、自分で考え、自分で実践することを、命を守るためにも身に付けなければなりませんね。